

## アフガニスタン支援にご協力を

PWJがアフガニスタンで活動を開始してから、もうすぐ8年になります。安全の確保とともに、PWJが直面している大きな課題が、活動資金の確保です。2001年の9.11、そして空爆直後の緊急時から年月がたち、アフガニスタン復興のための資金は目に見えて減りました。PWJのアフガニスタン予算も削減せざるを得ませんでした。しかし、今不足している食べ物や物資を配るだけでは、アフガニスタンの復興は果たせず、地域の安定も望めません。こうした状況を打破するため、2009年、PWJは現地での水資源調査を次の段階に進めます。今一度、皆さまのご協力をお願いいたします。

### 【郵便振替】

口座番号：00160-3-179641

加入者名：ピースウィンズ・ジャパン

\* 通信欄に「アフガニスタン」と明記してください。

### 【銀行口座】

銀行名：三井住友銀行桜新町支店

口座番号：普通 6705251

口座名義：特定非営利活動法人

ピースウィンズ・ジャパンアフガン支援

【ホームページからクレジットカードで】

<http://www.peace-winds.org/>

\*「寄付をする」ボタンをクリックしてください。



## 支援者サービスの窓

ご不要になった本、CD、DVD、ビデオ、ゲームなどをブックオフに買い取っていただき、買取代金をPWJの国際支援活動に役立てていただく「ブックキフ」。もうご存知でしょうか。

「気軽にできる国際支援」として、企業や学校でも取り組みの輪が広がっています。引越などの際にもぜひご検討ください（ブックオフではお手続きができませんので、必ずPWJへご連絡ください）。

ブックキフをはじめとする寄付、サポーター登録など各種のお申込み、お問い合わせ、住所変更などは、下記の連絡先へ。インターネット（ウェブ）からもお手続きいただけます。

電話 0120-252-176（フリーダイヤル）  
03-5304-7492

ウェブ    
[www.peace-winds.org](http://www.peace-winds.org)

## \* ピースウィンズ・ショツプから \*

### ゆば入りトマトカレー新発売

障害者の自立と社会参加を目指す宮城県東の作業所「はらから」で作られた「お豆腐やさんのゆば入りトマトカレー」の販売を開始しました。野菜のみで作られたカレーで、トマトの爽やかさとシメジ、ゆばがマッチして、くせになるおいしさ。200g入りとボリュームたっぷり、カレーはもちろんパスタソースにもぴったりです。

### 大好評カンボジアの黒コショウ

過去には「世界一おいしい」とも評された、フルーティーな香りが特徴のカンボジアの黒コショウ。「ピリッ」とした辛味があるいろいろな料理と相性ピッタリです。コショウは体内の塩分を排出するカリウムを多く含みます。カンボジアの経済発展につながる商品として、現地で栽培に取り組む「クラタベッパー」（オーナー＝倉田浩伸さん）のコショウを扱っています。

### おすすめピースコーヒードリップバッグ

冬の定番として好評発売中です。忙しい朝や、一杯だけコーヒーを飲みたい時などに便利なドリップバッグコーヒーです。



お楽しみ品もたくさんあります。ぜひご利用ください。

[www.peace-winds.org/shop/](http://www.peace-winds.org/shop/)  
電話 0120-252-176（フリーダイヤル）  
03-5304-7492

peace winds  
J A P A N

支援のプロを、  
世界の現場へ



# 水のプロ、再始動

—アフガンで水調査続行—

## 議論を経て次の段階へ

2008年後半、厳しい干ばつに見舞われたアフガニスタンの村々では連日、ピースウィンズ・ジャパン（PWJ）が手配した給水車を住民が取り巻いていた。一方、PWJ東京事務局では、一時帰国中の児島淳・アフガニスタン現地代表を中心に緊迫した会議が続いていた。議題は「今後のアフガニスタン支援」。児島が熱く訴える。

「現地の水の循環を解明するというPWJが続けてきた取り組みは、アフガニスタンにとって絶対に必要だ。PWJとして活動が続けられなくても、自分一人で結果を出すまでやる。そんな意気込みで活動している」

水の専門家である児島は、アフリカ・シエラレオネでの井戸掘削事業を経て、2002年から現地に駐在している。しかし、

アフガニスタンをめぐる情勢は6年で大きく変わった。復興資金は減り、平和と繁栄への期待はかなりかすんだ。PWJの活動地域でこそ、治安の激変はみられないが、悪化傾向は否定できない。

PWJは活動を縮小させつつも、その資金と人材を水資源調査に集中させて調査を継続してきた。水資源のデータなしでは農業が主体のアフガニスタンの根本的な復興はあり得ないからだ。

議論を経て、今後は水資源調査にかかわるアフガニスタン人の能力向上にも取り組むことが決まった。やがては現地人自身が調査の前面に立つことも想定する。事業は転換期を迎えた。児島は、調査活動を継続しながら、トレーニングを進める。

支援のプロを、世界の現場へ。待ち受ける困難は、紛争や災害だけではなく、スタッフたちは日々、葛藤のなかで決断を迫られる。その1人、水のプロ、児島の挑戦も続く。

# 支援のプロを、世界の現場へ

2008年度のピースウィンズ・ジャパン

## イラク

設立時から支援しているイラクでは、国内避難民とその受け入れ地域への生活支援を続けました。避難民キャンプにプレハブの仮設校舎や発電機を設置したほか、避難民の流入で人口が増えた地域の小学校の増改築、井戸・水道の建設、診療所への医薬品の提供を行いました。夏には干ばつに対する緊急支援として、井戸9基の建設や水道の修復、水タンクの配布などに取り組みました。



化学兵器の被害が深刻なハラブジャでは8月、2010年の完成をめざして母子病院の建設工事に入りました。そのほか、診療所10カ所の増改築を行い、家具や医療機材とともに地元の保健局に引き渡しました。

修復予定の小学校の前で打合せをするPWJ職員

## アフガニスタン

PWJが活動する北部サリプル州の治安は比較的安定しているものの、スタッフの安全を最優先にしながら支援を続けています。事業の軸となる水資源調査では、引き続きサリプル川流域の観測網の維持とデータ回収を行い、水の有効活用に向けた協力の可能性について現地政府と話し合いました。2008年初めの寒波で家畜などに大きな被害を受けた山岳地域の農村に、将来の現金収入につながるリンゴやアズノの苗を配布しました。

水資源調査のために山岳域に向かうPWJ車両。悪路のあまり故障することも。



また、近年まれにみる干ばつに見舞われ、農業生産に壊滅的な打撃を受けた地域の10000世帯余り(約73000人)に、4カ月間にわたって生活用水を供給しました。

## モンゴル

PWJが運営していた児童保護施設「ホットイル」から「ベルビスト・ケアセンター」に引き取られた子どもたちに対する支援を続けました。さらに1人が家族のもとへ戻り、2009年1月現在、7人がセンターで生活しています。

## 国内災害



PWJが支援した柏崎市の高齢者福祉施設

2007年7月に起きた新潟県中越沖地震に対する支援として、柏崎市西山町五日市で、損壊家屋の解体や修復の際に家財道具の保管場所となるユニットハウス(プレハブ)10棟の提供を続けました。夏と冬には地区の祭りや復興イベントの運営にも協力しました。また、地震で被災した市内の福祉施設2カ所の修復も秋までに完了し、残る1施設の修復も進めています。一方、大規模災害の発生時に連携して被災者支援にあたるため、他のNPO2団体などととも4月、「災害即応パートナーズ」を結成し、避難所運営のシミュレーションなどを行いました。

## ミャンマー

2008年5月にミャンマー沿岸部を襲ったサイクロン「ナルギス」の被害を受け、PWJはミャンマー商工会議所連盟とパートナーを組んで、被害が特に大きかったエヤワディ管区の被災者10000世帯に衣類や補助食品、緊急の調理用具などを配布しました。子どもたちには鉛筆やノート、学校の制服も届けました。9月以降はサイクロンで壊れた村の生活基盤の修復に住民と協力して取り組み、12月までに3つの村で道路、船着場、橋、そして海水の遡上を防ぐ堰を完成させました。さらに、村が運営する学校2校の修復作業も、2009年2月の完成を目指して進めています。生活基盤修復の事業では、農地を持たない人を雇用し、彼らに現金収入をもたらしています。



緊急生活物資を配るPWJ職員

## リベリア

活動は5年目に入り、ロファ州とボミ州で、隣国などから元の村に帰還してきた難民や国内避難民が生活の基盤を再建するための支援を続けました。計270世帯に住宅の資材を提供したほか、井戸33基の建設や修理、トイレ6基の建設を行い、井戸の修理方法などについて学ぶ研修会を開きました。教育分野では、ロファ州内で国立高等専門学校職業訓練科の教室と女子寮を建設し、帰還した子どもたちが通う学校に給食用の食糧を配布しました。

また、保健分野では、クリニックで働くスタッフのための宿泊施設3カ所の建設などを手がけました。難民などの帰還がほぼ終息を迎えたため、ボミ州での支援は2008年12月で終了しました。

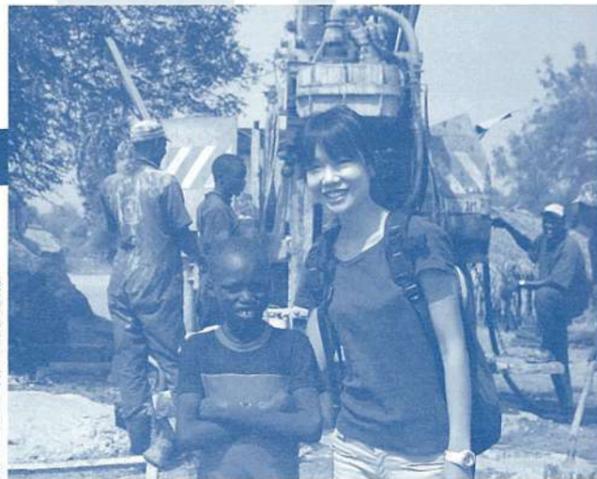
PWJが建設したトイレを村の人びとに引き渡すPWJ三浦



## スーダン

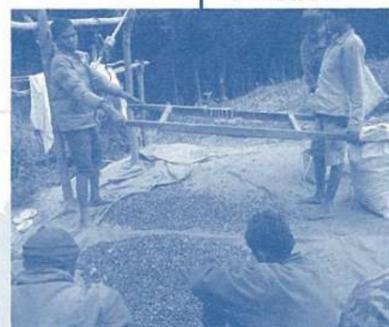
事業開始から2年半がたち、対象地域とともに活動の内容も広がりました。柱となる水・衛生事業では、ジョングレイ州内の4つの地域で2008年度前半に計39基の手押しポンプ式の井戸を建設。12月にはさらに28基の掘削を始めました。井戸を引き渡した村では衛生についての知識やポンプの維持管理の方法などを伝えたほか、雨期には州の井戸修復チームのメンバーなどを対象に、井戸の掘削から修理までを総合的に学ぶ研修会を開きました。また、新たに教育分野の支援として州内の小学校2校の修復に取り組み、それぞれトイレも併設しました。2009年度はエチオピアからの難民の帰還が始まるのに合わせ、水事業の対象地域をさらに広げる計画です。

右はPWJ福田。機械を使って井戸を掘削する。



## 東ティモール

収穫したコーヒーの実のサイズ選別作業



エルメラ県レテフォホ郡でのコーヒー生産者支援は、6年目を迎えました。2月に起きた大統領と首相の襲撃事件の影響で、収穫前の数カ月間は現地に入れない状況が続きましたが、豊作に恵まれ、コーヒー豆の輸出量は54トン余りと過去最高になりました。小規模ビジネスの振興をめざした生産者組合の女性グループの活動では、輸出規格に合わないコーヒーの地元での販売を続けました。一方、これまでは組合の運営を自立させて輸出作業全般を引き継ぐことを目指していましたが、すべてを組合が担うまでにはもう少し時間がかかりそうです。2009年度以降は、輸出の実務を担える組織づくりを当面の目標にして活動を進めていきます。

## 支援者のみなさまへ



ピースウィンズ・ジャパン 統括責任者 明城徹也

2月からピースウィンズ・ジャパン(PWJ)の新しい年度がスタートしました。皆様の温かい思いに支えられ、PWJも設立から14年目を迎えます。2008年後半以降、世界経済の危機的な状況や貧困の拡大に関するニュースを聞かない日はなくなりました。しかし、多くの方が会員やサポーターとしてPWJへの支援を続けてくださり、歳末寄付の呼び掛けにも数多くの善意が寄せられました。困難なかにもあって世界の人びとを思い、行動する方の姿に、スタッフ一同、勇気づけられるとともに胸を熱くいたしました。

2008年のPWJは、困難な状況が続くアフガニスタンなど世界各地での支援を継続する一方、サイクロンで大きな被害を受けたミャンマー(ビルマ)で新たに緊急支援を実施しました。今後人道危機に対して迅速に対応し、一人でも多くの難民・被災者の方によりよい支援が届けられるよう、より一層努力してまいります。引き続き、PWJの活動にご理解・ご協力をいただけますようお願いいたします。